

# 学推だより vol.12

KOKURA  
Elementary School

December 17th / THU / 2015

発行：学推担当

## これまでの「授業を見合う会」を振り返って。

お互いの日々の授業を共有する中で見えてくるものは。

今年度の授業を見合う会は、現時点で**のべ23回**を数えました。この数字から、先生方の授業改善に対する思いが大変伝わってきます。今年度残り3ヶ月あります。できる範囲で授業を見合い、少しずつ、そして一歩ずつ、授業改善への歩みを確かなものにしていきましょう。

さて、本号では大変個人的で申し訳ないのですが、私自身の授業を見合う会を含めた日々の授業づくりの「ふりかえり」をさせていただきたいと思います。4月からの授業づくりでチャレンジしてきたことを今一度確認し、その内容をこの時期（冬休み明けまで）に整理して、残り3ヶ月で確かめていきます。さらに、その3ヶ月間の実践をもとに、次年度の4月からの授業づくりに生かしていきたいと考えています。

授業を見合う会を終えて、先生方からいただいた「授業感想シート」のアドバイスや授業について共に振り返る話の中から、たくさんの気づきが得られました。授業を公開する（教室を開く）たびに「授業を見てもらうって大切だなあ」とつくづく思います。見てもらうことで新たな気づきが生まれ、次時へのモチベーションが高まっていくのを実感しています。

以前秋田県にいる際に、**「私たち教師は、経験を積みれば積むほど、自分のやり方がベストだと思いがちになってしまうもの。しかし、そのやり方に客観的な目が入ることで、より確かなものになる。」**という言葉を聞きました。授業を見合う会を通して、今年も改めてそのことを実感したところです。**「他者の視点を受け入れてこそ、実践が確かなものになる」**の考えを大切にしていきたいです。



5月の道徳に始まり、先月の算数まで、先生方には私の拙い授業を複数回見ていただきました。さらに、それに対するアドバイスもいただきました。大変感謝しております。今、改めて私自身の授業について、先生方からの感想やアドバイス、ビデオで振り返ると、次の点が大きな課題として明らかになりました。

それは**「わかる人の論理で授業づくりをしている！」**という点です。そんなつもりはなかったのですが、どこかでそういう部分があったと思います。反省です。「子どもはどこに難しさを感じるのか、どこでつまずいてしまうのか」を大切にしてきたつもりでしたが…。

教材研究をすればするほど、私自身の教材理解が深まってよかったのですが、その位置（教材理解が深まった）からそのまま授業づくりをしていたのではないかととらえています。つまり、**子ども目線からの教材の見方が足りなかった**と考えます。

別の言い方をすると、

自分だけが賢くなっている…。難しい内容を、より難しくして教えている…。

という感否めません。反省です。これらの反省から私が考えるべきことを次のようにまとめてみました。

わからなさ（つまずき）を、もっと具体的に想定すること。そして、そのもとになる思考の流れをとらえ、手立て（発問等）を用意すること。

わかる人の論理  
で考える

(例)

- ・～と発問をすれば、～と答えるだろう
- ・～の流れ（型）で行けば、わかるだろう
- ・～と教えれば、理解するだろう

わからない子の論理  
で考える

(例)

- ・～で手が止まるだろう。だから～と発問しよう
- ・～はイメージが難しいから、1つずつ例示しよう
- ・選択肢を検討する中で、理解につながるだろう

「どう教えるか」はもちろんのこと、**「子どもたちがどのように教材を見るのか（学ぶのか）」**を今一度考え直したいと思います。私自身の改善点が、アクティブ・ラーニングの説明の文ともつながる部分がありました。「どう教えるか」と「どう学ぶか」は表裏一体の関係です。両者のバランスを大切にしたいと思います。

**授業では、子どもたちが仲間と試行（思考）錯誤しながら学ぶことを前提に、教師がどのように、どのようなタイミングで関わればよいのか。**先生方からいただいた感想やアドバイスをもとに、この冬休みで具体的に整理してみたいと思います。そして、1月以降の授業を見合う会で実践し、先生方からもう一度アドバイスをいただけたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。

※自戒の念を込めて、石井順治先生がご指摘なさる**一斉指導方式の危険性**を載せておきます。うちあた…。

【一斉指導の授業における子どもの姿】

- ・教師に問われないと自ら考えようとしない
- ・仲間にではなく、教師に向かって答える
- ・詳しく語ることが少なく、単語程度の言葉でしか話せない
- ・言葉づかいも表情も、感情の乏しいのっぺりとしたものになっている
- ・子どもと子どもの横のつながりが薄い
- ・よく発言して活躍する子どもに偏りがある

【一斉指導の授業における教師の姿】

- ・教師が期待する正答だけを受け入れて進行しようとする
- ・子どもの考えを聴くことよりも、計画通りの進行にこだわる
- ・子どもを褒めることよりも、注意することが多い
- ・子どもの言葉に比して教師の言葉の量が多い
- ・子どもと子どものつながりをとらえる意識が薄い
- ・子どもから生まれてくるものを待つことができない



石井順治 著（世織書房 2004）